

大会参加報告

第 69 回 国民体育大会近畿ブロック大会 サッカー競技 参加報告

----- 「国民体育大会近畿ブロック予選大会に参加して」 サッカー2級審判員：堀 善仁 -----

はじめに

8月14日から18日までの4日間、国民体育大会近畿ブロック予選大会に審判員として参加させていただきました。国体と呼ばれる都道府県の代表同士がしのぎを削る大会の近畿予選に審判員として参加できたこと非常にうれしく思います。

また同時に、重要な大会、試合の審判員を務める責任感の重さを感じることができました。

大会一日目男子少年一回戦「奈良県対和歌山県」の主審を担当させていただきました。試合後、片山 ins*より「課題はポジショニング」と端的にご指導いただきました。

レフェリーサイドのタッチライン側の判定はベンチも近く、争点を良い角度で見ることが求められます。そのためもう少しタッチライン側によってみてはどうかということでした。またFKでの介入の仕方でも全て同じ介入の方法をするのではなく、「点数・時間・競技者の疲労度」を考え、行動を起こすことが必要ということでした。

競技者の様子やゲームの流れをしっかりと見るということが重要であるということ学びました。

*ins=審判インストラクターの意



堀 2級審判員

振り返りの

未熟さ

一日目の全体での振り返りの席で梅本委員長より、ミスをした自分を冷静に振り返るということを指導いただきました。

なぜそのミスが起きたのかを整理できていないとまた同じミスを犯してしまうということでした。「こんなミスをしました。次はこうします。次はこんなミスが起きないようにします。」ではいけないということ学び、自分の未熟さを感じました。

二日目は少年男子二回戦「大阪府対和歌山県」の第4の審判員を担当させていただきました。この試合では雷雨で試合が1時間以上中断するという経験しました。時間、再開方法等をしっかりと覚えておくことが大切だと思いました。

この日、森本 ins より「副審との協力」について副審の立場でのファウルサポートについてお話をいただきました。ホールドに関してはフラッグアップのタイミングが重要で、遅れてしまうとファウルをされている競技者のやり返しを生んでしまうということでした。また副審も主審をやっている時とほとんど同じ感覚で、ファウルの事象をしっかりと見極めることを意識していきたいと思います。

その後布瀬 ins より「機を見るに敏」という言葉を教えていただきました。この言葉は、「好都合な状況や時期を素早く掴んで的確に行動する様」

という意味だそうです。長いスパンで今の自分はどんな時期なのか、そして短いスパンの話では、試合においてのタイミングということでの時機が大切になるという話でした。

大会最終日は成年男子決勝「京都府対奈良県」の第4の審判員を担当させていただきました。柳澤insより、自分で全てのことをやろうとすると色々なことに対応できなくなってしまう。第4の審判員であれば運営の方にも手伝っていただいて、手詰まりにならないようにするということをご指導いただきました。



全体のまとめ

大会の中で、試合中のプレーオン1つで試合の流れが変わったシーンがあったそうです。自分も競技者が生き生きとプレーできるような試合にできるようこれからも審判の技術向上、人としての成長をしていきたいです。

来年もまたこの大会に参加したいと感じました。まだまだ未熟ですので、これからもご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。

最後になりましたが、開催県として様々な場面で助けていただいた滋賀県協会の方々、本当にありがとうございました。

以上